

第9回 下水道管路の包括的民間委託検討部会	
日 時	令和5年1月17日(月) 15:00~16:10
開催場所	横浜市役所18階 なみき14
出席者	(WEB) 滝沢部会長、高橋委員、原委員 (対面) 鴨志田委員、川北委員
欠席者	
開催形態	公開
議 題	1 中大口径管の維持管理方針と包括的民間委託のレビューについて 2 次期包括的民間委託のスキーム案について
議 事	<p>開 会</p> <p>1 下水道管路部長挨拶</p> <p>○横浜市 既契約の包括的民間委託の契約期間が令和5年度末までとなっており、今後の維持管理方針について本格的に議論を進めて行く段階となった。本日は今後の中大口径管の維持管理について、現在進めている包括的民間委託の成果や課題を踏まえた今後の考えを提示するので、内容について委員の皆様よりご意見をいただきたい。いただいたご意見を踏まえて引き続き検討していきたい。</p> <p>2 資料確認</p> <p>○事務局 次第 資料1 第9回検討部会説明資料 PPT</p> <p>3 会議成立の確認</p> <p>○事務局 全委員が出席であり、本日の検討部会は成立。</p> <p>議 事 (資料の説明については省略)</p> <p>1 包括的民間委託の実施状況と振り返り</p> <p>○事務局 資料1 議題1 「中大口径管の維持管理方針と包括的民間委託のレビューについて」説明。</p>

○事務局 ①今進めている包括委では効果を得られており、効率的な維持管理が実施できているたね引き続き包括委託を活用したい。②今の包括委託を進めるにあたり出てきた課題に対する改善案を共有させていただいた。上記2点についての審議をお願いしたい。

○鴨志田委員 課題に対する改善案の方向性の中で技術提案への反映を検討するとは具体的にどういうことか？

○事務局 技術提案内容については次回以降の検討部会で審議していただくこととなるが、現状出ている課題の解決の方法について、提案者から技術提案をいただき解決することとしたい内容のものである。

○鴨志田委員 現場立会に関する課題などが挙げられているが、提案から実施までのプロセスはどのように考えているのか？よりコストがかかるものや契約内容に含まれていないものに関してどのように実施して行くのか。

○事務局 今回は提出された提案内容を委員の皆様にご評価いただき、選定した受託候補者と契約するにあたり契約書の内容に提案いただいたものを反映している。

○鴨志田委員 提案いただいた内容をそのまま実務的に実施するのではなく、検討部会などで提案内容を確認した上で実際に履行するということか。

○事務局 例えば公募資料の中で効率的な監督の立会に関する効率的なツールがあるかどうか投げかけて、例えばリモート立会をするなど技術提案に反映していただいたものを評価委員会で評価していただくこと等を考えている。

○鴨志田委員 ①実務的にどのような承認プロセスを経て実行するか。②包括委託契約のスキームとして入れるもの。2つの可能性があると考えればよいか。

○事務局 契約前に取り入れるものと、契約後に受託者と具体的に決めていくものがある。

○鴨志田委員 今後新技术に関する審議の場があると思うのでその時に議論したいと考える。

○原委員 技術提案への反映を検討し課題を解決するとは、次期包括委託の提案を受けて解決するということか？

○事務局 そうである。

○原委員 提案を引き出すような公募資料にする必要があるのでは、入札の条件をよく検討する必要がある。

○事務局 承知した。

○原委員 緊急業務が想定より少ないという課題に対する改善案の内容についての考え方について教えてほしい。

○事務局 現在の契約内容としては業務毎の3年間での上限額が決まっている。緊急業務については管路の状態を見てもわからない部分があるので、当初は想定の数値で業務量を検討して上限額を設定している。実際に調査をしたところ、異常箇所の数値が契約時に想定している上限金額に達しない可能性があることが分かっている。金額を合わせるために不要な修繕をする必要はないので、例えば修繕箇所が想定より少ないのであればその分調査を実施する等、業務毎の上限額の設定をなくしたい。業務間での業務金額の凹凸を調整できるような契約にしたい。それにより長期契約の中で業務の自由度やスケジュールがもう少し自由に設定できるようになると考える。

○高橋委員 調査不可能路線に対して新技術の必要がなかったことに対する改善案となっているか疑問である。

○事務局 今の仕組みでは調査が不可能な路線に対して新技術を活用するという仕様になっている。ただし、調査技術は日々進展しているため、より効率的な維持管理を求めて新しい技術を積極的に活用できるような仕組みとしたい。

○高橋委員 それでは新技術を引き出すように見せていくような項目等を検討する必要がある。

○事務局 承知した。

○川北委員 清掃と修繕に関する課題について、内容を見ると修繕と清掃は充分にできなかったように見えるが、新たな技術が無くても時間をかければ実施できているということか？

○事務局 現場の状況により、できたものとできなかったものがある。特に潮位の影響を受ける箇所は作業時間が取れず、実施に期間を要したものもあった。

○川北委員 課題の解決に関しては提案を受けていくのみなのか？

○事務局 市が持ち得ていないやり方なども提案いただけるのであれば反映させることでスムーズに業務が実施できると考える。提案内容の中でも必須の項目ではないと考える。項目について強弱があるので、それらも踏まえて次回以降提案内容についてはお示ししていきたい。

○事務局 これまでの審議を踏まえて、引き続き中大口径管の維持管理について、包括的民間委託を活用したいという方針についてご意見はないか。

○滝沢部会長 引き続き包括的民間委託を活用するという事で良いと考える。

○事務局 承知した。次期も包括的民間委託を活用する前提で審議事項2を進める。

2 今後の中大口径管の調査に向けた論点整理

○事務局 資料1 議題1 「包括的民間委託の実施状況と振り返り」に基づき説明。

○事務局 先ほど審議項目1で説明したレビューを踏まえて、抽出した課題の解決策について検討し、次期包括委託のスキームに反映させた内容を提示したので審議をお願いする。

○川北委員 貯留施設については、元々調査する必要がないと考えていたということか？

○事務局 貯留施設は比較的新しいものが多いため、布設後30年経過した施設を対象とした現在の委託内容には入っていなかった。しかし、現在の委託で管きよ内の状態を把握した中で、土砂の堆積も確認されていることを踏まえ、雨が降った際に能力を発揮する施設など布設後の経過年に関係なく機能維持のために状態を把握する必要があるものについて認識した。施設の状態を把握して行く中で、土砂の堆積などにより十分に機能を発揮できないと考えられる施設もあることが見えてきた。維持管理をしっかり実施することが横浜市の使命であるため、中大口径管の維持管理に関する枠組みができてきた中で、もう一步踏み込んだ維持管理を追求していきたい。

○川北委員 調査の必要性は必ずしも年数に関するものではないということか？

○事務局 1500kmの中大口径管を調査した後に分析をすると古いものの状態が良くないということではないとなる可能性もある。今後の維持管理に向けて調査の結果をしっかり分析したうえで検討していきたい。

○川北委員 了解した。

○原委員 ①調査に関して手法を縛らないことで新技術の活用を促したいとのことだが、調査の手法を仕様で縛らないことが新技術の活用につながっていくわけではない。そのため、新技術の活用を促すことが必要。②統括マネジメント業務の主任技術者の業務過多を解決するために統括マネジメント業務を分割するということだが、業務過多とは人数が少ないからなのか、様々な業務が含まれているからなのか？人数が足りていないのであれば人員の増強を民間企業にお願いする必要があるのではないのか。③市内1件で実施するという事なのか？そうであればどのような課題から件数をまとめる必要が出ているのか。

○事務局 ①について調査手法は排除区分や管径などの条件により制約がある。その元となる技術と提案された新技術を比較して効果が期待できる内容であれば採用する等の検討をしていきたい。②について、主任技術者の人数と業務が多岐にわたっている2つの要因があると考えている。業務を細分化したうえで、各々の業務の窓口としての主任技術者を置いていただく必要があると考えている。今のスキームでは統括マネジメントの主任技術者にすべて担ってもらうこととなっているので業務の明確化をしたい。③現契約では市内全域を2分割にして発注している。次期包括委託は1件で発注するというわけではなく様々なご意見があるかと思うので、ご意見をいただきながら決めて行きたいと考えている。

○原委員 了解した。

○鴨志田委員 ①審議項目1で出ていた新技術の導入に関して、技術提案を促すにあたり、現在の包括委託を踏まえて抱えている課題を提示するのか？どの課題を解決させるための技術提案なのか提示する必要がある。②次期包括委託では統括マネジメントを分けて整理するということが、維持管理業務を着実に履行するためであることは分かったが、中長期的な検討については今後どのように実施して行くのか？

○事務局 ①承知した。確度の高い調査とスピードアップを優先的に考えている。日進量が既存の技術に比べてどうなるか等より具体的になるよう検討する。

○鴨志田委員 潮位の影響など具体的な課題の内容を提示したほうが良い。そのためどのような新技術を提案していただくかを明示できると良い。

○事務局 ②について、中長期的な維持管理方針については横浜市で定めるべきことと考えている。今は10年で1500kmの調査をしっかりと実施していきたい。その後どのように維持管理して行くかについては包括的民間委託とは別で検討していきたいと考えている。包括的民間委託は管の状態を確認して行くことが第一と考えている。包括的民間委託の受託者などにアドバイスをもらいながら中長期的な方針を検討していきたい。新技術などに関しては包括的民間委託の中で試行しながら維持管理計画を検討できると良いと考える。

○鴨志田委員 了解した。

○高橋委員 新技術をどう引き出していくかは難しい。評価項目の中で新技術にウェイトを置いていくのか？

○事務局 評価項目とウェイトについては今後検討していく。新技術の促し方について、どのような効果がありそうなのか検討・分析して部会委員に相談したいと考えている。

○高橋委員 新技術を入れていくことについて、中長期的にはキャッシュアウトが下がり、低くなるという見込み。新技術を導入して行くことにより、中長期的にコストを下げていくという方針を打ち出すのが良いと考える。

○事務局 承知した。

○滝沢部会長 新技術について多くの委員から有効なアドバイスをいただいている。横浜市が掲げている新技術をなぜ使ってほしいのか？短時間で調査を終えたいという背景なのであれば新技術でなくてもよいのではないか。そうではなく、中長期的に見て横浜市が新技術を習得することによって将来的な可能性にかけていくのか、横浜市のフィールドで民間企業にあえて新技術を試してもらった中で実践を踏まえて改善して行くことで民間企業の技術も改善され、横浜市も新しい技術の知識を蓄積できると考える。目先の業務のスピードアップだけでなく、今後の維持管理を見据える等、新技術を導入する目的について横浜市としてどのような方向性を持っているか。横浜市として将来的に活用して行くポテンシャルがあるのであれば一部分に縛って新技術を活用してみる等の考え方もあるのではないか。将来を見据えて新しい技術を使う場を提供したいのであれば提示方法の工夫が必要と考える。次回以降、横浜市の考えが提案者に伝わるように整理してほしい。

○横浜市 初めて包括的民間委託を導入して見えてきた課題や縛りすぎていた部分など、見えてきた課題について、新技術をどのように活用して行くかに焦点を当てて検討していきたい。どのような内容を提案してほしいか何分割で実施するか等、検討し次回以降審議していただきたい。

○鴨志田委員 新技術について、時間軸が違うことを包括委託の中で実施しようとしているのではないか？まだ実用的ではないが、今後使えるようになる技術の模索について、状態把握を主とした包括的民間委託とは別に新技術を活用する場を設けたほうが良いのではないか？新技術を持っている企業が包括契約の条件をクリアできるとは限らないのではないか。

○滝沢部会長 鴨志田委員の意見を受けて検討してほしい。

○事務局 実務的なものと将来を見据えたものなのかについて情報の集約なども含めて市が期待すべきものを整理して次回お示ししたい。

○事務局 議事録を取りまとめて報告する。本日のご意見を踏まえて次回春ごろを予定している検討部会で提示する。別途日程調整を実施する。

	<p>3. 事務連絡</p> <p>○滝沢部会長 現場視察について、可能であれば貯留施設や吐口など見ておきたい。</p> <p>○鴨志田委員 評価委員はまた1日かかるのか？個人的には評価はプレゼン聞いているの方が良い。</p> <p>○事務局 前回の課題を改善して進めたい。</p> <p style="text-align: right;">閉会</p>
資料	資料1 第9回下水道管路の包括的民間委託検討部会 説明 PPT